



池田 勇太

Yuta Ikeda

Profile

生年月日	1985年12月22日	プロ転向年	2007年
国籍	日本	世界通算勝利回数	9回
身長 / 体重	175cm / 77kg		

Biography

高校時には日本ジュニア2連覇、世界ジュニア優勝、大学時には日本学生2連覇、世界大学ゴルフ選手権優勝、日本オープンで高校生にしてローアマに輝く、史上25年ぶりの快挙を達成。期待を一身に受けてプロに転向。が、2009年「日本プロゴルフ選手権」でのプロ初勝利までには16試合を要した。その年、年間4勝をマークし、翌10年にも年間4勝を挙げて賞金王争いを演じた。初出場となった10年「マスターズ」で29位、11年の全英オープンでも予選通過を果たすなど海外ツアーでも成績を残している。

近年、日本で活躍しているプロゴルファーの中で、池田勇太は間違いなく異色の存在だ。

何が異色か？ 誰の目から見ても、彼のファッションはユニークだ。細身のパンツが流行る中で、彼はただひとり、3タックのダブダブのパンツを履いている。デビューしたころなどは「昭和の香り」「90年代風」などと面白おかしく書き立てられた。

物言いも独特だ。「おい！」「何だよ？」「知らねえ」という具合に、いつだって、ぶっさら棒。だが、ふと瞬間に垣間見せる笑顔は、とても無邪気で愛嬌がある。そのギャップも、彼のユニークな個性である。

技術的な面を見れば、池田はしばしば「フィール派」と評される。生来の感性でクラブを振り、感性で球を打っているのだと言われる。とはいえ、池田自身は感性だけに頼っているつもりはなく、自分なりの研究と自分なりのスイング理論は持っていると言っている。

それでも彼をフィール派と呼ぶべきかどうかはさておき、フィール&タッチを求められるショートゲームの上手さを問近に眺めれば、池田勇太の身体の中に優れた感性と感覚が宿っていることを確信させられる。

だが、池田の最大の異色性は、彼のルックスや口調や技術もさることながら、彼の人間性なのではないだろうか。お山の大将になるのは「決して嫌いじゃない」。